

竹の材料特性を活かした 新たな竹構造建築

滋賀県立大学 陶器浩一研究室

モノづくりを通じて、人と建築の未来を考える



ものづくり・ひとづくり・みらいづくり

建築とは“人と人をつなぐもの”であり、そこにあるもので如何に豊かな空間を築くかと言う知恵と工夫を積み重ねた“ものづくり”の結晶です。従来見出されていなかった素材の特性を解きほぐし新たな空間の可能性を追求すること、そして、設計するだけでなくみんなで築き、その場で起こることを共有し、建築とは何かを考えることが研究室のテーマです。

■ 自然竹

● 竹建築

“竹の会所”は被災地で学生たちと手作りで築いた日本初の竹造建築です。「なぜ竹を用いたのか？」それは、竹しかなかったからです。地域の竹1000本を伐り出し自力建設しました。学生たちと地域の子供たちの交流は今でも続いています。



● BAMBOO HOUSE PROJECT

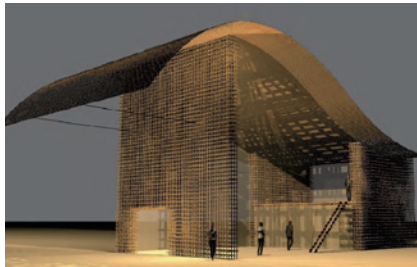
放置竹林の再生と新たな地域の場の創出を目的としたプロジェクトです。明るくなった場所には人々が集まり、皆で手入れをすることでコミュニティが生まれます。「生きる自然は地域を育む」がテーマです。



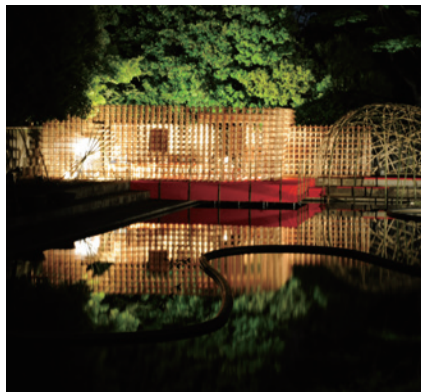
■ 加工竹

● 新たな竹建築の提案

鉄の約1/3という高い引張強度を持つ竹の材料的特徴を活かした新たな空間の提案です。自然な竹のしなりを活かした“しなやかなでやわらかな”空間、加工した薄板材を極細材と用いた繊細な空間を提案し、実現に向けて部材や接合部の開発を行っています。



■ 三方格子



● 新しい和のかたち

金物や釘を用いず手作業のみで組むことが可能であり、解体・組立が容易で自由に空間を展開することが可能な仕組みです。単純で複雑な新しい和のかたちです。
《組み方》一定間隔に施された相欠きを1/2ずつずらして三方向に組み合わせることで組むことができ、同じシステムで連結させることで空間を構成します。

滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科 陶器 浩一 研究室

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500

0749-28-8200 toki@ses.usp.ac.jp